

特定非営利活動法人自閉症くらし応援舎 TOUCH

発行のご挨拶

2007年 夏号

盛夏の候、皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2007年7月7日発行

特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎TOUCHの日中活動支援センター「スマイル・ポッケ」の開所から3ヶ月が経ちました。重度の方から高機能の方まで元気になって来られています。ソーシャルスキルトレーニングや個人に応じた決め細やかな支援を行い、それぞれの自立を支えています。今後は医療との連携を進め、自閉症の方々の安定した暮らしの実現に向けて更に努力して参ります。

目次	
TOUCHから	
発行のご挨拶	P 1
講演会のご案内	P 1
VOIS	P 2～5
実践紹介・新人紹介	P 6
オススメ新刊本	P 7
知っていますか	P 8
助成・寄付御礼	P 8
賛助会員様御礼	P 8

個別療育のPLT教室と日中活動支援のスマイル・ポッケで幼児から成人までの学ぶ・働く場所が出来ました。小さいお子さん方やその保護者にとって、成人の方の働く姿を身近に見れることは、これからの子育ての参考になることも多いと思われま。

皆様のお力添えにより、TOUCHの目指す包括的支援に少だけ歩を進めることが出来ました。日頃からの、ご協力に感謝を申し上げますと共に、今後もより一層のご支援をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎TOUCH 理事長 大森 博子

講演会のご案内

自閉症児者と家族への支援

～私たちの研究と国際自閉症研究集会IMFARで学んだこと

講師 福岡教育大学 障害児教育講座 教授
精神科医 納富 恵子先生～

日時 2007年11月18日(日)午後1時00分～午後3時(開場 午後12:30)

会場 ふくふくプラザ 502・503研修室 (定員100名)

参加費 前売り券 800円 当日券 1000円 (学生500円:購入時学生証提示)

申込み 郵便振込み(当日、振込みの控えをお持ち下さい)

口座番号 01790-0-117757

口座名義 NPO法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH

振込期限 2007年11月10日(金) 8月1日より受付開始です

問合せ Tel/Fax (092)632-8150 E-mail npotouch@ybb.ne.jp

主催 特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH(タッチ)

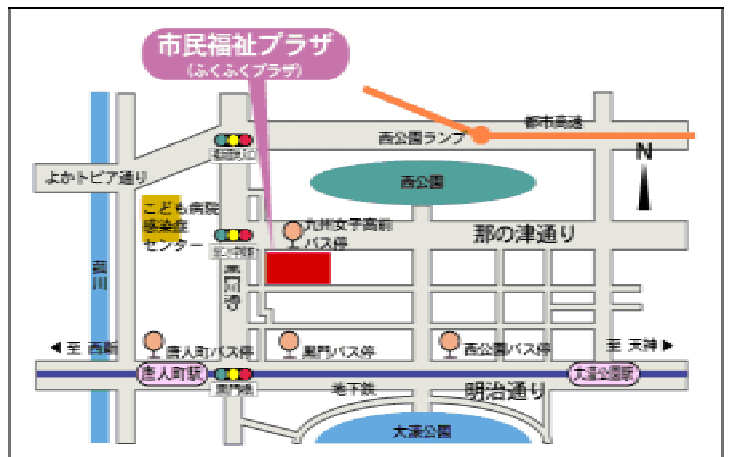


多数の申込みが予想されます。定員になり次第締め切ります。当日券の枚数も限られますのでお早めに申し込み下さい

納富恵子 先生プロフィール

福岡教育大学教育学部障害児教育講座教授・医師。専門は、障害児医学・児童精神医学・特別支援教育・自閉症児の教育。

著書として、(共著)『イラスト・まんがが教材で「気持ち」を理解』川島書店、/(共著)『自閉症のTEACCH実践』岩崎学術出版社、/(共著)『Autism, Search for Coherence, Philadelphia, / (共著)『学習につまづきのある子の地域サポート LD・ADHD・広汎性発達障害児の援助』川島書店、/(共著)『障害特性に理解と発達援助 教育・心理・福祉のためのエッセンス』ナカニシヤ出版、/(共著)『心と体の健診ガイドー幼児編-』日本小児医事出版社など多数。





TOUCHでは会員間の交流や、相談などをメーリングリストで行っています。その中から、いくつかのエッセイをピックアップして皆さんにお届けします。忙しいひと時、ほっと一息つくように、一緒に思いをめぐらせていただければと思います。

障害の告知と障害受容

保護者

我が家は、夫、大学4年生の長女、今年3月に養護学校高等部を卒業した18才の次女(重度自閉症、中度知的障害)そして私の4人です。近所に主人の父が住んでおり、行ったり来たり、毎週水曜日は娘二人で夕飯を届け(おじいちゃんはゴキゲン)、日曜日は、父が食事をしに来ています。

次女は3720グラムで生まれ、すくすくと大きくなり、早くはありませんでしたが言葉も出、2語文を使い始めていました。1歳半検診も特別問題ありませんでした。

しかし、だんだん言葉が増えるどころか今まで使っていた言葉も使わず、呼びかけに振りむくこともなく(ちょうど夏で)飲み物を要求する時は、冷蔵庫の前に行き「ギイギイ」と声を出してドアを開けようとする姿がありました。その様子が気になり知り合いに相談したり、小児科の先生に話をしたりしました。上の娘が幼稚園に入園し、その送迎(送迎バスがない幼稚園)などに気を取られて、次女を構っていなかった事に気づきました。その後は家族で一生懸命に関わり(身体的にも)少しは改善したように思えたため、専門機関に相談までしていませんでした。でも「おかしい」と感じたため、2歳になって保健所で検査をしてもらったところ「2歳の発達の枠内ではあります但し気になることもありますので、福岡市立心身障害福祉センターに行ってください。」といわれました。その時「枠内ではあります…身体障害福祉センター」という言葉が、枠内=普通、でも「障害」センターへ…と、私の頭の中で駆け巡っていました。

この「枠内」という言葉が、娘の障害受容を遅らせた第1歩でした。その後は、多くの方がそうであったように診断名を告げられることもなく、「母子通園に行かれたらよいと思います。でも、その施設名は精神薄弱者施設『 』です。気にされる方もありますが、どうされますか?」と言われました。障害受容を遅らす第1歩をふみだしていましたが、「障害者ではないですが(治っていきますが)行かれますか?」と捉えていました。半信半疑で、勝手な思い込みです。その後、診断をしていた先生に再びお会いし、娘はとても調子良かったため(今考えるとハイテンションだったのだと思います)部屋に入ってこられた先生が、少しして「僕は誤診したよ!」と言われたのです。これも勝手判断で「障害があると思っていただけ障害はないよ!」に聞こえました。発達障害について、少し分かるようになった今の私なら「自閉症と診断していたが、そうではなくADHDだったよ!」と言われていることに気が付いたかもしれません。(しかし、その後娘は、自閉症と診断されました)

でも、後悔しないように勧められることは、何でもしよう!!と思っていましたから、進んで行動し、周りからは、頑張る障害児の母親と思われていました。

17年前で、現在の様に発達障害のことが社会的に認識されていませんでしたし、私の勉強不足もあり、1歳4ヶ月から「おかしいな」と思い始め、本当に娘の障害受容ができたのは、小学校に入学してからでした。今考えると、「遅いぞ!」と思いますが、「治ってほしい」と思う愚かな親心でした。現在は、早期診断早期療育の大切さが広く理解されてきているので、私のような親御さんは、少なくなったのではないかと思います。



学校や地域での連携を大切に

保護者

関門橋がすぐ近くにある九州の玄関口、門司港に住んでいます。家族構成は、主人と私、そしてこの春5年生になったTとの3人暮らしです。療育手帳はB2。中程度の自閉症児です。体格は141cmの47kg。大きめでスポーツ刈りの『ちっちゃいおじさん』みたいな風貌です。

彼のブームはクラシック。CMなどでかかる曲は題名と作曲家を教えてください。(母は知らないのです)お絵描き(特に漢字)とトランポリンが大好き。今はDSの五目並べ・チェス(ルールは無視)・すごろくが特に気に入りのようです。

彼のネックは記憶。フラッシュバックをおこしてシクシク泣きが時々あります…。

今の状況に似た過去の記憶をリンクするみたいです。(泣いている時のセリフが過去のもので)ストレスの表し方は小さい頃の嘔吐から始まり、鼻血・じんましん・発熱…と変わってきています。この時期『卒業式』『お別れ会』『クラス替えの前の終業式』と式典続き。今まであるものがなくなるのと、周りが変わっていく不安で体調不良(発熱と鼻血)です。

こういう時は自分の中の環境調整のため、遊びの要求は感覚系のおもちゃが多くなります。気持ちの表出が少なく我慢してしまうので体に不調が現れる、見た目は大胆そうに見えるのですが、付き合っていくと「デリケートだよね…」とよく言われる子供です。2年間校区外の通園施設に通い、小学校は地域の養護学級に入学しました(12人クラスに先生2人)。

担任の先生は勉強熱心な方で、空き教室をカームダウンや課題の部屋にしてくれたりと頑張ってくれましたが、この小学校はとにかく子供の刺激が強く、2年の2学期からジワジワとこれまでの鬱憤が噴き出し始めました。紆余曲折あり、結局3年生から特別支援学校へと転校しました。

体制が整っているとほとんどないのですが、いまだに不調になると自分より弱いタイプのお子さんに牛乳をかけたり、押してみたりすることがあります。鬱憤をはらす方法がこうなってしまった…気の毒なことをしてしまったと思いました。原因となる背景は去年記録を採って解ってきています。すぐに払拭するのは難しいかもしれませんが学校でも根気強く取り組んでいるところです。ただ、あんなに萎縮して毎日帰りの車で泣くという生活だったのが、今では「学校好き！」と言う息子に親としては本当にホッとしています。

転校してからPECSを取り入れたり、約束カードを使ったりと自発的なコミュニケーションや社会性の部分が徐々に伸びてきています。自信をもって相手に伝えることが出来ること、語彙を増やすことが今の彼の課題です。まだまだ表出は確実ではないのでこれからもコミュニケーションの部分は丁寧に教えていきたいと思っています。

TOUCHに入会してから5年も経つのに、まだまだ彼を混乱させてしまう、懲りない母です。でもこうやって書くこと日々の生活を振り返る事が出来て新鮮ですね。

将来を見据えた支援を考えて、これからも学校や地域とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

孤独から～仲間と共に

保護者

数年前…通っていた療育施設の工作の時間、ペットボトルを使って車を作るという課題があった。先生が作り方を文字で紙に書いてみんなに一つ一つ説明していたが文字も言葉の意味も息子には分からない。そうこうしているうちに、教室からいなくなる。その息子を私が追う。そんな母子を先生が呼びに来る。教室に戻ってもう一度、先生が一生懸命教えてくれる。息子は…見ていない。結局、時間がきて先生が作ってくれた。出来上がった車を見ても、息子は何の興味も持たない。同じ自閉症のお友達は、楽しそうにできた車で遊んでいるのにうちの息子は何でいつもこうなんだらう…。ここに来てもいつも息子も私も孤独だった。

翌年、TOUCHの会に入会して 勉強会や講演会等でTEACCHを学びはじめた。ある日、ブロックを使って簡単なロボットを作るという課題をしてみた。めくり式のカードに一つ一つブロックのパーツを写真に撮って提示した。一枚ずつめくってブロックを重ねていく。誰の手も借りず静かにロボットが完成した。相変わらず、出来たロボットには、関心を示さないが、私は嬉しくてずっとそのロボットを触っていた。

あの工作の時、もっと早く私が学んでいたら、息子にもきつい思いをさせなくて済んだと思う。だからこそ、今はあの時の気持ちを忘れずに息子の視点で物事を考え、深く理解していきたいと思う。今年度も皆さんにいろいろと教えて頂きながら頑張っていきたいと思う。

PECSで気持ちを引き出す

保護者

家族は父、母、10歳の息子、Y(言葉をまったく持たない重度の自閉症)の3人です。近くには、北九州市民球場とメダドームがあり、見上げれば足立山がそびえています。母は気にいっていますが、息子は???

早いものでTOUCHに入会したとき、年中だった息子も、5年生になります。なんか信じられませんが…今は春休みで暇をもてあそんでいる毎日です。夜、早く寝てくれるのはうれしいのですが、その代わり朝起きるのが早いので、お手伝い、お勉強があつという間に終わってしまいます。なので、長〜い遊びの時間を日々を送っています(お絵描きしたり、ビデオ見たり、となりのトトロの絵本、チラシ、写真など見たりしてはいますが…)。

近況ですが、昨年2月～7月までPECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の指導を受けました。その後6月にPECS 2daysも受け、担任の先生も参加してくださり、学校の導入もスムーズにいきました。

今までは、自分が要求を出してもわかって貰えない(字を書くのが大好きなので、自分が覚えた精一杯の文字を、紙に書いて要求はするのですが、なんて書いているか解らないので時間がかかる)で、イライラしてくる。そして時間がかかればかかるほど、激しくなり(こちらも一生懸命解ろうと解読するのですが、なかなか厳しくて、お互いもどかしい気持ちになっていました)、家では母、学校では担当の先生を、叩く、押すなどの行為が多々あり、大変でした。でもPECS導入後は少しずつですが、イライラが減ってきたような気がします。これからも少しずつですが、語彙を増やしていき、言葉をもたない息子と、PECSを通じてコミュニケーションが出来るようになっていけたらと思っています。

PECS(ベクス)とは

絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)は、1985年に開発されました。自閉症やその他のコミュニケーション障害を持つ、子どもから大人までコミュニケーションを自発するように教えるためのユニークな拡大/代替コミュニケーショントレーニングです。

詳細は

ピラミッド教育コンサルタント
オブジャパン

<http://www.pecs-japan.com>



食育の成果

保護者

Tは小学校の情緒学級に通っている、6年生の元気な男の子です。家族構成は、父、母、姉(中2)、本人(B1)、母方の祖母の5人家族です。2年から5年まで担任していただいた大好きな先生が移動になりましたが、1年の時から補助の先生は変わらず、新しい担任も優しい女の先生で以前と変わらず楽しく学校へ通えています。

息子は元気に産声を上げ、その後の成長も首のすわりから歩き出すまで順調でした。ところが歩き始めた時から超多動になり、高いところが大好きで、家の中で家具や電気製品の上に乗って上に有る物を落としまくり、引き出しの中は全部出し、片付けている間にまた他のものを散らかすといったことの繰り返しでした。2歳の時にはサイドボードから落ちて鎖骨を骨折しました。一步外に出ると目も手も離せず、手を繋がせて歩いてくれることも無く自分が行きたい方向へ走り出すので、いつも追いかけているか抱っこしている状態でした。名前を呼んでも振り向かず、目も合わさず、自分から母を頼って甘えてくることのない子でした。

それからの子育ては次々と問題行動を起こす息子と向き合い3年生までは本当に大変でした。耳からの情報より、目からの情報が入りやすいので、2年生になってからはカードを見せながら、してはいけない事を繰り返し教えました。4年生くらいから少しずつ落ち着きだし、今では会話も出来るようになり、楽しく子育てが出来ていくくらい成長してくれました。(まだまだ大変なことはありますが...)

やはりTOUCHで学んだスケジュールを取り入れることによって、本人が見通しを持って生活が出来ようになった事が大きいと思います。学校での行事も先生がスケジュールを作ってください、運動会、学習発表会、お泊り学習会、etc...と楽しく過ごすことが出来ました。

サークルでは2年生の時から、親と分離するキャンプ(開会式と2日目の親子レクと閉会式のときだけ親に会えます)に行っていますが、スケジュールを持たせています。母子分離のつらさを乗り越え、心からキャンプを楽しめるようになったのはスケジュールの力も大きいと思います。7回目のキャンプの時は、前日に「書いた？」とスケジュールを催促されたので渡すと嬉しそうにめくって眺めていました。

落ち着き始めると同時に、かなり偏食の多かった息子は食べられる物も増えていき、飲めなかった炭酸飲料まで飲めるようになりました。毎日のように甘い炭酸飲料を飲みたがり、食べる量も増えていき多動も収まってきて、見る見る太っていきました。以前に「多動の子はいつかおさまるよ。かえって動かなくなって太ってしまう」と聞いたときには、こんなに多動なのに収まるかしらと思っていましたが、現実のものとなってしまいました。

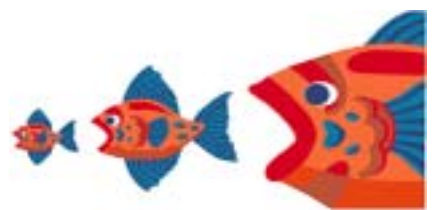
5年生になって急に「僕は5年生になったからお寿司を食べます」と言い出したので、「しーじゃっく」に連れて行くと本当に食べたのでびっくりしました。それまではどんなに家族がお寿司を食べても食べなかったのに、今ではお寿司のネタは何でも食べられるくらい大好物になりました。

そんな矢先に学校から食育のマンガの本を貰ってきて、毎晩寝る前に読んでもらいたがるようになったので、ラミネートしてセリフを面白おかしく読んであげるようになりました。「油脂を控えて健康に」「油と脂どっちがいいの?」「野菜の色には意味がある!」などの内容で、まさに今の息子にぴったりの内容でした。お肉や揚げ物などを食べ過ぎて油脂をとりすぎると肥満になり、血液の中に悪いコレステロールや中性脂肪が増えて動脈硬化を引き起こすと血管が詰まったり破れたりして脳梗塞、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症、脳出血、大動脈瘤などの命に関わる病気になる。肥満になると、ここまでの大きな病気になる前に高脂血症、糖尿病、高血圧になどの病気を引き起こしやすくなるので、食事と運動で日ごろから肥満の予防を心がけておくことが大切といったような内容がマンガでわかりやすく描いてあるので、楽しみながら学んでいるようです。

2年前に主人が糖尿病になり、食生活を見直して栄養のバランスのよい食事を心がけていましたが、味噌汁や野菜、煮物やひじき等の和食をなかなか食べてくれなかった息子が、本を読んであげるようになって何でも食べるようになりました。朝からご飯の上にきんぴらや菜の花の炒め物など載せて「野菜丼」などと言って食べるようになりました。外食でも和食の定食のお刺身、てんぷら、茶碗蒸し、煮物、焼き物、と全部残さず食べるようになりました。かず汁を美味しいと食べてのはびっくりしました。甘い炭酸飲料もほとんど飲まなくなりました。休みの日には、父親と歩いてダイエーに行ったり、少し運動に気をつけるようになりました。今は、添加物についても少しずつ教えています。

私がそばに居なくても、息子が正しい食事を選べるようになってくれるのが願いです。

身長が伸び悩んでいる時期なので、現在142センチ、46.5キロと太目ですが、将来逆三角形の筋肉マンになってくれる事を信じて育てていきたいと思っています。



息子の18歳を迎えて思うこと

保護者

我が家は、主人(少々疲れぎみ)、娘(社会人2年目)、息子(18才の自閉症者)、私(ポケと戦っている)の4人家族です。息子は、Hと言います。今年東養護を卒業して、4月からスマイル・ポッケに元気に通っています。一月经ちましたが、しっかりした個別支援のおかげで、パニックもなく穏やかな日々でうれしく思っています。皆様のおかげだと感謝しています。

これまで色々ありましたが、あっと言う間の18年でした。しかしTOUCHの若いおかあさんを見ていると、確かに時間は過ぎていると思うこの頃です。

彼が小学校に上がるまでに5回引越しをしました。自閉症の診断を受けたのは3才の時、北九州の療育センターでした。やはりとは思いましたがショックでした。

乳離れもあっさり、歩くのも10ヶ月から、なん語もあり、おむつも早く取れて順調だと思っていましたが、言葉はまったくなくなり、絵本を読んであげているのに勝手にページをめくったり、おかしいと思うことが多くなりました。

診断後は、鹿児島で抱っこ法の療育、日曜学級に参加し、大阪の言葉の教室に行ってみたり、武蔵野学園のパンフを取り寄せたりしているうちに、とても障害が重いことがわかり、二重にショックを受けました。そんな時、日曜学級の学習会で青山均先生のお話を聞いたのがTEACCHとの出会いでした。その後、福岡でも色々な出会いがありました。それは又、つぎの機会に書きたいと思います。



本人の成長に寄り添って

保護者

我が家の王子は、通称Hくん、今月22日に11歳になる。現在、北九州市の特別支援学校に通う小学部5年の男の子です。

判定は最重度、言葉はようやく要求言語の役割を果たす「ハッパ」のみ。何か欲しい時、お父さん、お母さんと呼ぶ時、手伝って欲しい時、「もう一回して!」、「早く行こう!」、「トイレ!」…等、一言語に人が介入してもいいことのすべてを込めて、おなかから大きな声で「ハッパ!」と毎日言い続けています。

すべてがスローモードな進み具合で、すぐに横道にそれる事が多いのですが、コミュニケーション・マインドに関しては、Hのわかる範囲で人に言ってみよう!と「ハッパ」を通して言うことが広がったなあと思います。

身辺自立は、トイレと食べることが未熟で、昼間のトイレは出かけた先でも、一人でオシッコは行けますが、夜はまだおむつのビッグを愛用しています。腰周りが細いのでまだはけますが、大人用のおむつライフリーに変えていくのか、おむつを卒業できるのか、まだまだここは、安心できない分野です。食事もある時間は、上の姉より断然早いのですが(しゃべらないから…)ごはん粒の散らかり方が壮絶です。

ここ半年くらい、色んな条件の悪さで調子を崩し、パニックになると自傷が再開してしまい、今、思案に就いています。頭ぼかぼかが始まると、見ている方も辛く、最近右目の横のこめかみにあざができ、今までTOUCHで勉強してきたのに防げなかった自分に落ち込みました。彼に寄り添うには、時間と工夫がいるということですね。なかなかイバラの道ですが、また初心に戻り、我が子の亀の歩みを一步一步応援していきたいです。

門先生との不思議な縁

保護者

7年前、私達親子が体験したことは、いま思い出しても不思議な、これが一期一会とでもいうような出来事でした。そして、私が2月にTOUCHの勉強会に初めて参加し、門先生の講演会が福岡であると聞いたとき、「これは何かに引き合わせてもらった!」と感じました。

それでは7年前の出来事について簡単にご紹介しましょう。その当時、私達は京都の亀岡というところに住んでおり、小学3年生の息子は乗り物が大好きだったので、JRや地下鉄を乗り継いで京都の植物園に私と娘(姉)と3人で遊びに行きました。多分、五月の連休で人が多かったと記憶しています。

植物園といっても色々遊ぶところが多く、このときも砂場のところに遊具や小さな図書館のようなところで遊んだあと、飲み物を買おうと自動販売機にお金を入れました。間違えて押してしまったのか、飲み物が出てくると、かんしゃくを起してしまいました。何度も言い聞かせましたが、収まりませんでした。しばらく私と娘は離れて飲み物を飲んでいるその間に、はぐれてしまいました。

私はすぐに見つかるだろうと思っていたのですが、なかなか見つからず、植物園の人に頼んで自転車を借りて探し回りました。後で聞いた話ですと、息子は出口から出て、泣いていたそうです。

1時間以上たって、交番から植物園へ電話があり、迷子を預かっていると聞き、交番へ駆けつけました。その時に見つけて交番まで連れて行ってくださったのが、門先生ご夫妻です。帰りに門先生と地下鉄で一緒に帰る約束をしたそうで、帰りの地下鉄の中で門先生から「何か療育を受けていますか」と聞かれ「花ノ木の療育を受けています。LDではないかと言われていますが…」と答えると「いえ、この子は自閉症です」と門先生が仰いました。

今まで色々な検査を受けて、自閉症ではないと言われていたのですが、門先生の一言が、今まで何となくふに落ちなかった我が子の障害を考え直すきっかけになりました。その後は、本を読んだり講演会に参加したり、担当の先生のカウンセリングなどで、息子の特異性が理解できるようになりました。今回の門先生の講演で、私が知らなかったあの時の息子とのやりとりを聞き、改めて息子に対する門先生の適切な対応に驚くばかりです。

今まで出会った学校の先生、公文、スイミング、感覚統合、体操教室、絵画教室とそれぞれの先生方からサポートしてもらい、一つ一つ積み重ねることの大切さ、達成感を糧に、失敗してもまた別のやり方があるのだと親子ともども考えられるようになったと思います。

福岡に来てまた新しい出会いがあり、将来を考える時期が目前にせまりました。皆さまの体験や助言を受けながら、人と人の縁を大切にしていこうと思っています。

PECSについては、門先生のHPが大変参考になります。

門 眞一郎の落書き帳 <http://www.eonet.ne.jp/~skado/>
TOUCHでは門先生もオススメのPECSの好子にもなる楽しいグッズのご紹介をさせていただいています! TOUCHのHPでは8月公開

PECSの指導について

TOUCHでは6月9日に門眞一郎先生の講演会「自閉症の方のコミュニケーション」を行いました。PECSの具体的な指導方法の紹介もあり、アンケートでは関係者から高い関心をもたれている事がわかりました。

PLTでも開所以来、自閉症の方々の自発コミュニケーションを促すPECSの指導を行っています。TOUCHの指導者は全員PECSの正規の講習を受け、正しい理解と支援技術を持っています。また、それだけでなく常にスキルの向上を目指し、研修を重ねています。

PECS指導の現場から

A君は、欲しいものがあると人を介すことなく、自分でそのものを取りに行きます。昨年7月よりA君の大好きなもの(好子)を用いて、それを人に要求したらもらえるといった自発的なコミュニケーションの指導を始めました。本人の大好きなものをを用いることで、意欲が高まり、人を介して伝えるというスキルがより早く身につくようになりました。

最初は、大好きなものの写真カード1枚から始め、そのカードを取って相手に手渡すことを身体プロンプト(子どもの行動を援助する)しながら行いました。A君は、直接欲しい物を取りに行こうとすることが多かったのですが、繰り返すうちに自立してカードを取って、要求する相手にカードを手渡すことができるようになりました。自立して行えるようになるまで7セッションほど繰り返し指導しました。もちろん、場面や人を変えても要求できるようになりました。

本人と要求する相手との距離を離すと、やはりカードを取らずに直接取りに来ようとするすることがありました。ですが、無理矢理、奪いとろうとすることはありません。欲しい物のカードを持ってくれば、それをもらうことができるということが分かっているので、カードを取りに行きます。

1枚のカードを用いての好子の要求が離れたところにいる人にもできるようになると、2枚のカードの中から欲しいもの1枚のカードを選択して要求するように設定しました。興味のある活動ですし、好きなものの写真はよく見るお子さんでしたので、自分で好きな方を選んで要求することはすぐに達成できました。今では複数のカードが入っているコミュニケーションブックの中からページをめくって自分の欲しいもののカードを選んで要求することができています。

ある場面で、できていても、ご家庭で同じようにできるとは限りません。ご家庭でも同じような環境でなければ、あえてコミュニケーションしようとすることもなく、これまでと同じように直接欲しいものを取りに行くことでしょう。ご家庭でもコミュニケーションする場面を設定し、練習することが大切です。ですが、それぞれのご家庭の事情もあり、日々の生活の中で親と子の2人の時間を作ることは大変なことです。保護者の方と一緒に話し合っ、一番取り組みやすい場面一つ取りあげて、今はそこだけに焦点を絞って取り組んで頂いています。これからは、もっと場面や要求する幅が広がり、人に伝える、人に伝わるコミュニケーションができるように取り組んでいきたいと思ひます。 指導担当: 福澤

スマイル・ポッケ 職員紹介

5月からTOUCHの一員となりました大森貴子です。西南女学園大学の福祉学科を卒業後、千葉県にあります「しもふさ学園」という成人の自閉症施設で勤務していました。最重度の自閉症グループを担当し、毎日慌しく、そして支援者として様々な壁にぶつかりながらも日々勉強といった感じです。しかし福岡で、自閉症支援の啓発を！！という人生の目標を胸に、今年4月より福岡に戻ってきました。TOUCHの設立目的や方針に感銘を受け、ぜひTOUCHに関わりたと思ひました。現在は、日中活動支援センター「スマイルポッケ」で成人の方の支援を担当しています。

スマイルポッケとは、学校を卒業後、生活が不安定とありがちな方々のために地域での安定した日常生活を支える場として、社会的自立を果たす場として個々の特性に応じた支援を行っています。中学生(障害のある不登校生徒)からの利用が可能で、日中の活動の支援はもちろん、TOUCHの個別療育と連携してアスペルガー・高機能自閉症の方のソーシャルスキルトレーニングもを行っています。

TOUCHでは、物理的構造化・視覚的構造化をフルに活用し本人が見通しを持って日々の生活を安心して送れるよう配慮することができます。

4月よりスマイルポッケの活動が始まり、5月からは新たなメンバーも加わりました。その際、今まではいなかった方が1名増えるという環境の変化に対応できず、安心して活動できていませんでした。そのため、各人のそれぞれのエリアをより明確に構造化し、また今日活動している人は誰で、どの支援者が関わるのか、といった顔写真付きの週間の予定表という視覚的な構造化も進めたのです。本人に理解して頂ける情報を提供することで、毎日本人が自分で確認することができるようになりました。こうして事前に予告されることで落ち着いて日中の活動に参加することができるようになったのです。

また、週間の見通し、きょう・あしたの概念理解が進みつつあるのに保護者からは「解るとは思ってもみなかった」と喜んでいただいています。

本人が「わかる」「できる」手立てを考え、感覚の特性に配慮した環境を整えます。障害特性に応じた適切な環境や支援の方法があれば、本人も周囲の人も快適に暮らすことができ、地域での安心した生活を送ることができます。一般の施設や作業所では、運営上の問題や環境、そして障害の特性について十分に理解が得られないなど不合理的な問題を抱えていることが多々あります。当センターでは、その方の障害特性に合ったオーダーメイドの支援を行うことができます。支援者としてこんなに嬉しい環境はありません。利用される方たちのオーダーメイドな支援環境を武器に、今後も自閉症の理解を深めたいと思ひます。皆様、宜しくお祈ひします。

個別療育: PLT療育 対象 幼児～成人まで(年齢制限はありません) 自閉症・ASの方々

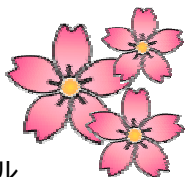
PEP-R 自閉症・発達障害児教育診断検査 または AA-PEP 青年成人期自閉症教育診断検査の実施後

個別の療育指導計画を作成し、達成度を明確にします。月間・年間の指導報告書をお渡します。

認知・コミュニケーション・余暇・自立・ソーシャル各領域のスキルを伸ばします。高機能・ASの方々のソーシャルスキル

トレーニングも実施しています。 見学や問い合わせは

・fax(092)632-8150 Eメール npotouch@ybb.ne.jp 詳しくはHPをどうぞ



新刊本のご紹介



梅永 雄二 編著

「こんなサポートがあれば！2」
(出版:エンパワメント研究所)

2007年5月 1470円)

サポーター必読の著です。

当事者のニーズについてまとめ、話題をよんだ「こんなサポートがあれば！」の第2弾。

当事者のニーズに応える真のサポートとは何か？
ALAAHFA(成人のLD、ADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症をもつ人)自身の声に基づき、求められるサポートとサービスのあり方を10点にわたり具体的に提起する。



藤井学著

「自閉症 からだと せかいをつなぐ新しい理解と療育」

(出版:新曜社
2007年5月1995円)

「自閉症の困難の本質とは？ 日々の療育をより効果的にするための新しい認知科学にもとづく理論モデルを懇切に紹介。大反響のブログ「お父さんの「そらまめ式」自閉症療育」のそらパパと臨床心理学者・神谷栄治氏とのコラボレーション。

門先生もオススメの本です。どうして、そらまめ・なんでしょうね？



生活支援センター
あすく 著

「自閉症者のための
医療用絵カード
歯科編」

(2007年5月 2000円)

自閉症支援の便利グッズです。医療用もオススメ！

自閉症などの発達障害の人が、安心して診察や検査が受けられるように医療用の絵カードを作成しました。医療機関で何をするのかをわかりやすく絵で示してあげることで、何があるのかを理解して見通しをもって診療を受けることができます。好評をいただいている「医療用絵カード」にひき続き、「医療用絵カード歯科編」も作成しました。歯科治療は、目に見えないため、特にイメージを持ちにくいものです。歯科受診をスムーズにするためにご利用ください。



ニキ・リンコ著
「自閉っ子における
問題な想像力」

(出版:花風社
2007年6月 1680円)

ニキさんの新刊、今回も面白いです。

なぜカンタンなことがわからない？
自閉症スペクトラムのお子さんと接していて「あのさー、それくらい、わかるだろー、普通」と何度も思ったことのある親御さん・先生方・支援者の方々！ニキ・リンコさんがまたまた自閉脳のヒミツを明かしてくれました！

この本を読むと自閉っ子がいっそう愛しくなります！
楽しく読み進めながら支援のヒントがたくさん得られる一冊です！一見想像力豊かそうな自閉っ子になぜ「想像力の障害」があると言われるのか？
そんな疑問にも答えてくれます！

ご存知ですか

千葉県で障害者条例が施行 ～全国初 障害者差別の解消に一步を踏み出した条例～

千葉県は7月1日、障害を理由とする雇用拒否など障害者差別を具体的に定義し、解決のため知事に実態調査や是正勧告の権限を付与する全国初の条例を施行しました。

名称は「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」。

2006年12月に国連で採択され、今年3月に署名開放となり、すでに80数カ国が署名した「国連・障害者権利条約」において、いまだ日本は署名をしていません。そんな中、千葉県の条例の施行は、今後の日本における障害者権利擁護の先駆者的役割を果たすと期待されます。

この条例は4つの柱を基本として構成されています。

- 1、何が差別に当たるのか分野ごとに定義
- 2、個別の事案を解決する仕組み
- 3、差別の背景にある制度や習慣を変えていく仕組み
- 4、差別解消に向けて頑張っている人を応援する仕組み

2004年6月4日に改正された障害者基本法による障害者の定義は身体・知的・精神の3障害です。千葉県の条例は、それらに加え、発達障害と高次脳機能障害も定義としています。また事案解決の仕組みを設定し、【広域専門指導員】【千葉県障害のある人の相談に関する調整委員会】を設置したことは、実際に活用される条例として期待できます。

また、国連・障害者権利条約の署名・批准にむけ、日本国内の法改正への大きな導引力になると思われます。日本の人権保障の現状と国連の権利条約との差は、非常に大きいです。条約内容と国内の法制度の整合性を持たせるために、障害者差別禁止法の制定が、近い将来実現されるのではないのでしょうか。

注) 障害者差別禁止法とは、“障害による差別”の問題が生じたときに、裁判で争えるような強制力のある法律です。英国・米国など40数カ国では、すでに制定されています。お隣の韓国でも3月に国会で承認されました。

障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例: 千葉県障害福祉課ホームページ

http://www.pref.chiba.jp/syozoku/c_syofuku/keikaku/sabetu/sabetu.html

国連・障害者基本条約「川島聡・長瀬修 仮訳(2007年3月29日付訳)」: JDFホームページ

<http://www.normanet.ne.jp/jdf/shiryo/convention/index.html>

助成、寄付を頂きました皆様、賛助会員の皆様、
ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

2007年4月～2007年6月

助成・寄付

団体(順不同・敬称略)

日本アムウェイ株式会社One by One アワード

独立行政法人福祉医療機構助成(高齢者・障害者福祉基金「地方分」)



賛助会員

個人(順不同・敬称略)

山本美智子	藤原愛子	三浦つよ子	渋谷真理	貞光美奈子	大久保麗子	時任イツ子		
時任義裕	時任キヨ	糸永卓見	飯田憲司	吉田ひとみ	時任義治	緒方俊一	緒方昌子	
青柳与志子	草葉なおみ	三浦初音	田多野裕子	佐藤 スミエ	首藤昇悟			
宮崎亜希子	小笹美代子							
熊野小百合	佐々木桂子	大西睦子	嶋津マヤ子	佐藤靖成	峰松美恵	中牟田香子	渡辺亮一	

医療との連携を考えるプロジェクト!

TOUCHでは医療と療育の連携を考えるプロジェクトを進めています。精神科医による当事者・家族相談を行い、より適切な医療ケアと療育支援によって安定した地域生活を支えたいと願っています。相談会は9月に行う予定です。参加ご希望の方はお問い合わせ下さい。

発行元

特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH
～広報部～

福岡市東区箱崎1丁目19-9 優箱崎ビル1F 2号

TEL & FAX (092) 632 - 8150

<http://www.npotouch.jp/>

E-mail npotouch@ybb.ne.jp